

**授業概要**

この授業では、受講生が国際的な文化理解を促進できる力などを備えるようになるために、ユーモアを通して学ぶ英語圏文学（特にイギリス文学）というテーマのもと、その文学における主要な作家・作品を取り上げ、作品の一部抜粋に触れて英語表現を学びつつ、その文学世界を講義する。また英語圏文学（イギリス文学）にまつわる基礎的及びより専門的な事項（時代的及び多様な文化的背景、文学用語等）も学習する。なお毎回の授業の最後に、授業内容に関連した問題演習（提出）を行う。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方など）、イギリス文学とユーモア—代表的作家・作品とユーモアの意味について—
第 2 回	ジェフリー・チョーサー—長詩『カンタベリー物語』を中心に—
第 3 回	ウィリアム・シェイクスピア—史劇『ヘンリー四世』を中心に—
第 4 回	ベン・ジョンソン—喜劇『癖者ぞろい』を中心に—
第 5 回	ジョナサン・スウィフト—風刺小説『ガリヴァー旅行記』を中心に—
第 6 回	ヘンリー・フィールディング—近代小説『ジョウゼフ・アンドルーズ』を中心に—
第 7 回	ジェイン・オースティン—恋愛小説『高慢と偏見』を中心に—
第 8 回	チャールズ・ディケンズ—非科学的小説『ピクウィック・ペーパーズ』を中心に—
第 9 回	ルイス・キャロル—ファンタジー小説『不思議の国のアリス』を中心に—
第 10 回	オスカー・ワイルド—喜劇『真面目が肝心』を中心に—
第 11 回	P・G・ウッドハウス—短編小説集『比類なきジューズ』を中心に—
第 12 回	イーヴリン・ウォー—ブラックユーモア小説『愛されたもの』を中心に—
第 13 回	R・D・ウィングフィールド—ミステリー小説『クリスマスフロスト』を中心に—
第 14 回	A・A・ミルン—児童文学『クマのプーさん』を中心に—
第 15 回	第 1 回～第 14 回のまとめ
第 16 回	学期末試験

**到達目標**

以下のイギリス文学という英語圏文学に関する基礎的及びより専門的な知識を身につけることを目標である。

1. 主要な作家名・作品名を挙げることができる。
2. 作品中の英語表現と訳文とを対応させることができる。
3. 文学用語などをほぼ説明することができる。

**履修上の注意**

授業開始後 30 分以上超えた場合は欠席扱いとするので、注意すること。私語厳禁。

**予習・復習**

プリントを読んだうえで授業に出席すること。授業後は学んだ内容を確認すること。できれば、授業で取り上げる作家の作品を読んで欲しい（訳本で可）。

**評価方法**

学期末試験 65%、第 2 回から第 14 回に課された問題演習 25%、授業参加（発表）10%。

**テキスト**

教員作成のプリントを使用する。また Power Point 及び DVD 等も活用する。